

泌尿器科紀要

**Acta
Urologica
Japonica**

Vol. 47, No. 12 December 2001

**ACTA
UROLOGICA
JPN**

◇金沢世界都市構想支援◇

第3回 KANAZAWA 国際交流泌尿器腫瘍学セミナーのご案内

テーマ：膀胱腫瘍

日時：2002年6月14日（金）17：00より金沢ニューグランドホテル1階ロビーにて登録開始，
19：00より歓迎懇親会を金沢ニューグランドホテル（☎920-0864 金沢市高岡町1-50
☎076-233-1311）にて開催します 金沢の食文化をお楽しみいただけるよう，メニュー
には特に工夫を凝らしましたので，多数のご来場をお待ちしています。

2002年6月15日（土）8：30よりセミナー会場にて登録開始

セミナー 8：55～17：00

会場：石川県教育会館 ☎920-0961 金沢市香林坊1丁目2-40 ☎076-222-1241

事務局：(医)石川医療技術専門学校 ☎920-0847 金沢市堀川町29-5

☎076-262-1133 FAX 076-263-3203

お問い合わせなどは学校長 久住治男 へ

参加費：5,000円（歓迎懇親会，15日昼食〈和 中 洋の中より選択〉は無料）を事前納入の方
には前もって抄録集，名札をお送りします

本セミナーには日本泌尿器科学会専門医申請用研修単位が認められています

後援：金沢市

協賛：世界保健機関，(社)金沢ボランティア大学校

プログラム

開会の辞 8：55 組織委員

セッションⅠ 9：00 膀胱腫瘍の基礎的検討 司会 香川 征教授（徳島大学）

1 膀胱発癌と進展の遺伝子変化と Susceptibility に関する遺伝子的因子の検索

羽瀨 友則（京都大学）

2. 膀胱癌における腫瘍血管新生：診断と治療への応用

中川 昌之（鹿児島大学）

3. 膀胱注入による膀胱腫瘍遺伝子治療の試み

堀口 裕（慶應義塾大学）

特別講演 9：50

司会 Professor Lennart Andersson

(WHO Collaborating Center for Urologic Tumors, Stockholm, Sweden)

Experimental therapy of urinary bladder carcinoma

Professor Per-Uno Malmström (Uppsala Univ. Sweden)

セッションⅡ 10：40 膀胱腫瘍診断におけるバイオマーカーの最近の知見

司会 藤岡 知昭教授（岩手医科大学）

塚本 泰司教授（札幌医科大学）

1 膀胱がん再発の分子機序

堀江 重郎（東京大学）

2. 膀胱癌診断における BTA, NM-P22, iNOS バイオマーカーの比較

鈴木 泰（岩手医科大学）

3. 膀胱腫瘍における尿中テロメラーゼの発現と早期診断への応用の可能性

越田 潔（金沢大学）

4. 再発膀胱癌における遺伝子診断の有用性

執行 雅紀（札幌医科大学）

- 基調講演 13:10 生物学特性に基づく膀胱腫瘍の治療
司会 吉田 修学長 (奈良県立医科大学)
垣添 忠生病院長 (国立がんセンター)
- セッションⅢ 14:00 表在性膀胱腫瘍の治療
1 表在性膀胱腫瘍療後の自然史
2. G3 表在性膀胱腫瘍の保存的治療
司会 平尾 佳彦教授 (奈良県立医科大学)
桶之津史郎 (東京大学薬剤疫学講座)
津島 知靖 (岡山大学)
- セッションⅣ 15:00 浸潤性膀胱腫瘍の治療
1 膀胱癌に対する膀胱全摘後の自排尿型代用膀胱形成術
2. 本邦における浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術の成績および術後尿路の再建術の現状
3. 浸潤性膀胱癌に対する術前・術後補助化学療法:多施設共同アウトカム研究
4. 浸潤性膀胱癌に対する動注化学療法と放射線による膀胱温存療法
司会 内藤 誠二教授 (九州大学)
小川 修教授 (京都大学)
Professor Hanjong Ahn (Asan Med. Center)
鷹巣 賢一 (国立がんセンター)
藤元 博行 (国立がんセンター)
西山 博之 (京都大学)
宮永 直人 (筑波大学)
- セッションⅤ 16:20 進行性膀胱腫瘍の化学療法の進歩
1 MEC study を中心として
2. 新規抗がん剤を含む内外の臨床試験データをもとに
司会 赤座 英之教授 (筑波大学)
黒田 昌男 (大阪成人病センター)
三木 恒治 (京都府立医科大学)
- 閉会の辞 17:00 組織委員 ※講師のご所属は平成13年12月現在のものです

大学, 病院, 先生方へのダイレクトメールは申し込み用紙, 会費払込取扱票 (郵便局) などとともに平成14年3月中に発送の予定です 多数のご参加をお待ちしています

オーガナイザー代表

久住 治 男

宿泊のご案内

セミナー会場に隣接する「東横イン金沢香林坊」は廉価で最も便利なホテルといえます。ネット予約は <http://www.inn-info.co.jp> でどうぞ。現時点でシングル (58室) は平日 ¥4,800。日・祝 ¥3,980 税込み, ツイン (23室) ¥8,800, ☎076-265-1045, FAX 076-265-1046。i モードからは <http://www.inn-info.co.jp/i> で予約可。昨年改装済み。LAN 無料各室常時接続。※その他近辺にはニューグランドアネックス, 東急ホテル, スカイホテル, KKR, ワシントンホテルなど多くのホテルがありますが, 「旅の窓口」<http://www.mytrip.net> から選択 予約が最も宿泊費が安いと思いますので, 今回は旅行代理店を利用しておりません。JR 金沢駅からは駅前市内バスセンターの 6, 7, 8 番などの乗り場から香林坊 (¥200) で下車, 大和デパート正面右端の入口から裏口に抜け左折, すぐに石川県教育会館 (セミナー会場) となります。小松空港からはバス (¥1,100) にて香林坊で下車すれば, 近辺のホテルには 2~5 分程度で到着できます 会費払込取扱票, プログラムは平成14年3月頃に各大学, 病院等の先生方にダイレクトメールにてお送りします。

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Editor Emeritus : Osamu YOSHIDA

Editor : Osamu OGAWA

Deputy Editor : Akito TERAJ

Advisory Committee

Sadao KAMIDONO

Tomohiko KOYANAGI

Seiji NAITO

Tetsuro KATO

Takashi KURITA

Shin-ichi OHSHIMA

Tadaichi KITAMURA

Masaru MURAI

Ken-ichiro OKADA

Associate Editors

Shiro BABA

Katsusuke NAITO

Hidetoshi YAMANAKA

Haruo ITO

Akihiko OKUYAMA

Susumu KAGAWA

Taiji TSUKAMOTO

Editorial Board

Hideyuki AKAZA

Takashi DEGUCHI

Junnosuke FUKUI

Tomonori HABUCHI

Yoshihiko HIRAO

Tatsuo IGARASHI

Nobuhisa ISHII

Hiroshi KANAMARU

Mutsushi KAWAKITA

Kenjiro KOHRI

Atsuo KONDO

Manabu KURIYAMA

Tadashi MATSUDA

Ikuo MIYAGAWA

Mikio NAMIKI

Shinshi NODA

Hiroshi OHE

Yusaku OKADA

Seiichiro OZONO

Kenji SHIMADA

Taro SHUIN

Masayuki TAKEDA

Hiroyoshi TANAKA

Ken-ichi TOBISU

Shoichi UEDA

Sunao YACHIKU

Kosaku YASUDA

Yoichi ARAI

Shin EGAWA

Hideki FUSE

Masamichi HAYAKAWA

Senji HOSHI

Mikio IGAWA

Yoshiyuki KAKEHI

Hiroshi KANETAKE

Nobuo KAWAMURA

Takuo KOIDE

Yoshinobu KUBOTA

Masaaki KUWAHARA

Masahiro MATSUSHIMA

Yoshinori MORI

Yasunori NISHIO

Katsuya NONOMURA

Yoshiyuki OHNO

Tetsuro ONISHI

Young-Chol PARK

Toshiaki SHINKA

Yoshiki SUGIMURA

Mineo TAKEI

Saburo TANIKAZE

Hiroshi TOMA

Michiyuki USAMI

Hirohiko YAMABE

Masayoshi YOKOYAMA

Yoshiaki BANYA

Kimio FUJITA

Momokazu GOTOH

Eiji HIGASHIHARA

Kiyotaka HOSHINAGA

Kyoichi IMAI

Hidehiro KAKIZAKI

Yoji KATSUOKA

Taketoshi KISHIMOTO

Munekado KOJIMA

Hiromi KUMON

Zenjiro MASAKI

Tsuneharu MIKI

Teruhiro NAKADA

Osamu NISHIZAWA

Yoshihide OGAWA

Kenji OISHI

Yoshinari ONO

Hiroki SHIMA

Taizo SHIRAISHI

Koji SUZUKI

Hideo TAKEUCHI

Toshiro TERACHI

Yoshihiko TOMITA

Tsuguru USUI

Tamio YAMAUCHI

Tatsuhiko YOSHIKI

Managing Editor : Seiji MOROI, Shingo YAMAMOTO, Noriyuki ITOH

Language Editor : Sumiko KAIHARA

Secretary : Teruo NAKAI

(2001.10.)

購読要項 (1996年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円(送料とも)を前納する。賛助会員は20,000円(送料とも)とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

投稿規定 (1996年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、その外の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5またはA4判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めにくる場合は大文字)、明瞭に記載する。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田，ほか：前立腺癌・PSA
 - (ii) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文(250語以内)の順にB5またはA4判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。ワープロ原稿可。
 - (iii) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
 - (4) 英文原稿はA4判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
 - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと(アルファベット順不可)。その数は30までとする。
例：山田^{1,3,7)}，田中ら^{8,11-13)}によると…
雑誌の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題。雑誌名 巻：最初頁-最終頁，発行年
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. J Urol **144**: 1110-1114, 1990
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか: 経皮的腎砕石術(PNL)および経尿道的尿管砕石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿紀要 **33**: 1357-1363, 1987
単行本の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題，書名。編集者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)。版数，巻数，引用頁，発行所，出版地，発行年
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976
例 4) 大保亮一: 腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編。第1版，pp. 259-301, 南江堂，東京，1986
 - (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
 - (8) 原稿は、オリジナル1部とコピー2部(図、写真は3部ともオリジナル)を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。
(原稿送付先) 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛
3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

日本においても本格的なヒト ES 細胞研究が開始された。京都大学でも再生医科学研究所において ES 細胞研究が行われようとしている。ES 細胞とは「ヒト胚から作成され，人の体を構成するあらゆる細胞に分化する可能性を持つ細胞」と定義され，1) ヒト受精胚，2) 人クローン胚，3) ヒト性融合胚（ヒトの核を動物卵に移植）から樹立される可能性がある。

文部科学省はヒト ES 細胞研究に関する指針を作成し，厳しい審査のもとに認可する方向を打ち出しているが，私自身は今のところ積極的に参画するつもりは無い。かといって大声で「反対」というほどの理念や根拠があるわけでは無いのであるが，なんとなく違和感があるのである。指針のなかに「人の生命の萌芽たるヒト胚から作成された ES 細胞……」というような役人的な文をみると，細胞実験の経験とひねくれた性格を持つ私は詭弁のように感じてしまうのである。ES 細胞研究がもたらすであろう福音に関しては私も期待するところが大きい，培養器の中の細胞に人の尊厳を実感することは私には出来そうもない。ES 細胞を廃棄するたびに心の中で手を合わせるくらいは最初のうちは出来るかもしれないが，それが日常となった場合に，その感性を維持していく自信が無いのである。そういった感性の変化が我々の文化に影響を与える可能性に関して違和感があるのだろう。

「文部科学省の指針が出たこと」イコール「人間にとって正しいこと」では無い。ひとりひとりの研究者が違和感を大切にしながら研究を継続することが必要ではないかと思う。

(小川 修)